

vol.72

2023.2 甲府西高情報誌

山梨県立甲府西高等学校
Kofu Nishi High School

西高のステージへ!

Insta·stage

ありがとう。
思い出。

☆ → ♥ ♪



Be Yourself!

~最高の日々を!~

修学旅行

歴史・文化・自然を体験し、幅広い知見を身に付けることができました。

2年次生は、12月4日から3泊4日広島・大阪・京都・奈良への修学旅行に行ってきました。

Be Yourself!
～最高の日々～

1日目 羽田空港→広島空港→平和記念資料館



2日目 広島→大阪(ユニバーサルスタジオジャパン)



3日目 大阪→京都



4日目 クラス別行動(京都→山梨)



修学旅行を振り返って

私たちの学年は、中学校での修学旅行が制限されたものでした。しかし、そんな苦い記憶も塗り替える素晴らしいものになりました。初日に訪れた原爆ドームでは私たちが伝えていかなければならないものに触れました。そして1日中はしゃぎ回った USJ、伝統に触れた京都散策…。非日常的な4日間はあっという間に過ぎてしまいました。ホテルでの友達との写真撮影会やお菓子パーティーも昨日のことのように覚えています。これも早くから準備してくださった先生方、旅行会社の方、保護者の方々のおかげです。ありがとうございました。一生の宝物になりました。

2年 武井 アンリ (山梨南中出身)



キャリアビジョン形成支援事業

西高では県の「キャリアビジョン形成支援事業」の支援を受け、様々な形で将来のキャリアビジョンを高めるプログラムを行っています。

1年次 キャリアガイダンス

職業編

進路&職業の選択の幅を広げるためのガイダンスを行っています。職業編として11月に講師をお招きして講演会を実施しました。



私は進路・職業の選択をする際、圧倒的安定派でしたが、長谷川さんのお話を聞いて「起業」という選択肢もありだと思った。「起業」は1度失敗しても何度もやり直せる、同じ道を歩く仲間がいる、起業家たちを応援してくれる社会がある。そんなことを初めて知って、「起業」に対するネガティブイメージを変えることが出来た。また、自分の利益を考えるのではなく、「誰かのために」「より良いものを」という考えが成功につながるのだと感じた。これから様々なことにチャレンジして、自分の世界を広げたい。



米ラーメンヒーロー創業者
長谷川 浩之 社長

甲府西高卒
東京大学経済学部卒
2017年、米国 サンフランシスコにてRamen Heroを創業
現在ではアメリカ全土48州に展開中

1年 宮田 琥太郎(甲府北中出身)



進学編

国際関係学・経済経営学・人文学・工学・理学・薬学・医学・看護学・農学の10の分野から講座を設け、それぞれの専門の大学の先生から講義を受けました。



高校入学当初は警察の官僚になりたいと考えていたけれど最近ではデザイン系の起業をしたいと考えていた。しかし、今日の講義を聴いてやはり法学は面白いと感じた。将来に確信をもったことはまだ決めることは出来ないけれど、大学で経済学と法学を学びたいと思った。これから大学調べをするにあたって経済学と法学の両方を学べる所を探していきたいと思った。大学についても将来についてももっと柔軟に考えていきたいと思った。

1年 武藤 梨桜(梨大附属中出身)



経済学とは、全ての人が物質的に豊かにないこと、欠乏を無くすことだと言っていたので、自分の利益だけを考えるのではなく周りの利益のことも考えることが経済において重要だなと思った。また、日本は物事に対し選別的であるので普遍主義と言う考えを広げていき、経済全体の格差を無くす必要があると感じた。

1年 深瀬 悠(南西中出身)



1年次 年次レク

年次全員によるレクリエーションを企画し、綱引き・リレーの種目をクラス対抗戦で行いました。



私にとって年次レク実行委員長は人前に出て、物事をまとめるいい機会になりました。不安で心がいっぱいでしたが、実行委員の支えや1年次全員の素早い行動があり、レクを成功させることができました。関わって下さった多くの人に感謝しています。

年次レク実行委員長
1年 小川 陽也(玉幡中出身)



土曜講座 特別編 ～西高ゼミナール

西高の土曜講座では、多くの教科で学力を伸ばすための講義や演習が行われています。12月に実施された特別編では、「もっと知識好奇心を!もっと探究心を!」をテーマに、教科書の枠を飛び出した探究的で深い学びの楽しさを紹介してくれました。



落語:今年は何の噺が飛び出すか!?



そば打ち:北杜の名店「翁」のそば粉を使う、贅沢な体験



ピタゴラスイッチ:1万個のドミノを並べ、一斉に倒しましょう!



ポトムアップ理論:強くなりたいあなたへ



ペーパーブリッジ対決!いざ勝負!



アハ体験:未知な物事を…「閃く」瞬間を体験…



物理「楽!?!」:超有名問題(モンキーハンティング)の実験…

探究活動

西高では、探究活動(鳳凰学)で、1年次生は「山梨に生きる」というテーマで山梨について課題研究を行い、その成果をポスターにまとめ、発表します。2年次生は、各自でテーマを設けた課題研究に取り組み、3年次生で課題論文として発表しています。

探究活動でまとめたポスターを「第8回高校生国際シンポジウム」(一般社団法人Glocal Academy)に応募し、4人の生徒が書類審査を通過しました。鹿児島県で開催される本大会に出場します。

- 「ホルムアルデヒド吸収量が多い観葉植物ランキング」2年 渡邊 愛子(双葉中出身)
- 「タイ王国の農村部を対象として栄養調査の実施および考察」2年 武田 輝幸(双葉中出身)
- 「アマゴの生育環境に御勅使川が適しているか環境調査から読み解く」2年 佐々木 舞子(芦安中出身)
- 「日本の平和教育の課題と解決策」2年 小林 璃瑠(梨大附属中出身)

私は中学校でアマゴという川魚を放流したのがきっかけで、御勅使川の河川環境がアマゴに適しているのかの調査を行いました。アマゴはダム湖や河川の堰の建設に伴い個体数が年々減少しており、放流することで種の存続をはかっています。魚の生態とその環境が合致しているのかは放流する上で重要ということが分かりました。今回の調査がアマゴ遡上のための魚道の研究につなげられたらと思っています。

2年 佐々木 舞子(芦安中出身)



2年次課題論文 中間発表の様子

2年次生が、課題研究に取り組み、中間発表としてポスター発表を実施しました。



1・2年次 岡本尚也先生による講演会

県立文学館において、総合的な探究の時間「鳳凰学」で使用しているテキストの著者である岡本尚也先生から講演をいただきました。1年次生は、課題研究の意味について、2年次生は、課題研究の楽しさや論文の書き方についてご指導いただきました。



第43回山梨県高等学校芸術文化祭

11月に高校文化部の祭典「芸術文化祭」が開催されました。新聞部門、書道部門、美術・工芸部門で次年度全国総文祭への切符を手に入れました。

芸術文化祭賞受賞

芸術文化祭賞をいただいたことをとても嬉しく思います。この経験を糧にして、これからの高校生活をより一層充実したものにしたいです。今年の夏には総文祭に参加できるので、多くの作品に触れたり全国の高校生と交流したりする中で、たくさんのことを学べたらと思っています。



文学部門 短歌部門

1年 志村 晃太郎(櫛形中出身)



芸術文化祭賞 合唱部門



芸術文化祭賞 美術工芸部門

主な成績

- ・演劇部門 優良賞
 - ・合唱部門 芸術文化祭賞
 - ・吹奏楽部門 優秀賞
 - ・日本音楽部門 優秀賞
 - ・新聞部門 優秀賞 ※来年度総文祭に出場
 - ・書道部門 優秀賞 2年 小野和奏(若草中出身) ※来年度総文祭に出品
奨励賞 2年 額川太郎(山梨南中出身)
 - ・美術・工芸部門 芸術文化祭賞 2年 加賀美葵(甲西中出身) ※来年度総文祭に出品
 - ・社会科学部門 優秀賞 武田輝幸(双葉中出身)
奨励賞 今井結愛(甲府北東中出身)
 - ・テーマ部門 奨励賞 2年 松山はな(押原中出身)
 - ・ポスター部門 奨励賞 1年 森田大智(梨大附属中出身)
-
- ・文学部門 短歌部門 芸術文化祭賞 1年 志村晃太郎(櫛形中出身) ※総文祭
優秀賞 1年 三井悠久(竜王中出身)
 - 俳句部門 優秀賞 1年 清水心優(甲府西中出身)
 - 1年 保坂絵里子(櫛形中出身)
 - 1年 馬淵結愛(甲府北中出身)
 - 1年 小中澤尚貴(甲府西中出身)
 - 1年 富樫啓人(竜王北中出身)
 - 1年 鶴田くるみ(塩山出身)
- ・自然科学部門 生物部門 教育長奨励賞 2年 佐々木舞子(芦安中出身)
 - ポスター部門 教育長奨励賞 2年 今井結愛(甲府北東中出身)
2年 水島温(敷島中出身)
- ・テーマ揮毫部門 優秀賞 2年 渡邊輝帆(韮崎中出身)
 - (芸文祭テーマを書道で表現) 奨励賞 2年 高野朱里(双葉中出身)



書道部門



新聞部門

第68回青少年読書感想文山梨県コンクール 高校生部の部 自由図書 県議会議長賞 / サントリー奨励賞 受賞

この本を通して考えたこと

周囲の環境に揺るがない信念を持つ主人公に感嘆すると同時に、自分の未熟さに羞恥を覚えました。タイトルから、勉強ができない主人公を無意識に下に見ていた自分がいたのかもしれませんが。その先入観も覆されるほど、一つ一つの言葉が印象的でした。勉強ができなくて、お調子者で、年上の彼女がいて、片親で、時田秀美と私とは重なる部分が少ない。それでも私は、「彼になりたい」と強く思いました。この本は、私に新しい世界を見てくれました。



1年 川手 結和
(梨大附属中出身)

あなたにとって本とは？

これまで、読書をするのと全く別の世界に入り込むような感覚がありました。1冊を読み終えたとき、なんとなく虚無感や寂しさに包まれていたのも、これが理由だと思っています。「僕は勉強ができない」という本では、初めて私自身の経験と本の中の人生を照らし合わせて読む、ということをしました。過去に私が感じていたモヤモヤが、たった1つの言葉で腑に落ちました。私にとっての本とは、ただ違う世界を見せてくれるだけでなく、私の人生における1つの解答例を提示してくれるものだと考えています。

第31回小論文・読書感想文 コンテスト小論文部門 最優秀賞受賞

山梨県高等学校地歴公民科主催のコンテストで最高賞を受賞しました。



1年 甘利 妃恵花(若草中出身)

このような賞を頂いても光栄に感じます。私は、「発展途上国に対する支援のあり方」について書かせていただきました。1つの問題を解決するにはそれに関わる他の要因も合わせて解決する必要があります。また、全て先進国が担うのではなく、できる限り途上国自らが、助けが必要な時は先進国が快く支えることも重要です。誰一人取り残さない世界を創るためにも先進国に生きる私達だからこそ考えねばならないことがあるはずです。今後も様々なことに関心を持って生活したいです。

第16回全日本高校 模擬国連大会 全国大会出場

私たちは、11月に国連大学で行われた第16回全日本高校生模擬国連大会に出場しました。担当国はクロアチアで、議題は「多国籍企業及び社会政策に関する原則の三者宣言」でした。従来の会議とは異なり、議場設定が実施予定の会議であったことから、参考文献が非常に少なく政策立案が非常に難しい会議でした。少ない情報の中で国益を探り、ペア間で協力しながら会議に取り組みました。



2年 荻原 ののか(玉幡中出身) / 2年 武田 輝幸(双葉中出身)

何気ない時間の大切さ

先日、久しぶりに多めの降雪がありました。学校は、帰宅時の安全確保のため、午前中で授業が打ち切りになりました。帰りのホームルームも終わり、一段落と思った頃、外から雪遊びをする女子生徒たちの元気で無邪気な声が聞こえてきました。久しぶりの雪を目の前に、屋外で感染の心配も少ないことから、思いっきりはしゃいでしまったというところでしょうか。新型コロナ感染症による制限ばかりの毎日のなかで、文字通り降って湧いたような積雪に、思わず外に駆け出さずにはいられなかった生徒の楽しげな様子を見て、「本来、高校時代とはこうあるべきだ」「仲間とこのように時間が青春時代には貴重なんだ」と改めて気づかされました。そして、卒業時の進路決定が高校生活の第一義的な目的であるとしても、今回の雪遊びのような何気ない時間を経験できる安定した毎日がいかに大切なものであるかを考えさせられました。

高校時代の3年間をどのような環境で過ごすかは、言うまでもなく、それぞれの学校の環境次第ということになり、そのなかでどういった経験ができるのか、いかに濃密な時間を送ることができるのかということが大切です。この意味で本校は、広域にわたる中学校から、豊かな人間性と優れた才能を兼ね備えた人材が集まっており、普通に生活を送るだけでも自然と刺激し合う、良質な相互作用が期待できる環境にあると考えています。さらに、これまでの教育活動に加え、国際バカロレアプログラムによる一期生の誕生や課題論文による探究活動の充実などにより、多種多様な化学反応が期待できる環境が整ってきています。

依然として新型コロナによる制限が求められる状況ではありますが、本校の恵まれた環境のなかで、生涯に渡って大切な意味を持つことになるこの3年を悔いのないよう過ぎて欲しいと願っています。



校長 初鹿野 仁

国際バカロレア (IB) の教育



2年次IB生「IB英語」の授業紹介



IB英語の授業風景

IB英語の授業では、英語でのディスカッションの中で、他者の考えに耳を傾け、自分の考えを深め、広げていきます。海外の学校とオンライン授業を展開することもあります。

IB英語を通じて、英語を使用することでテーマについてよりグローバルに考えることができます。英語力も大幅に向上します。

IBの使命 IB mission statement

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりを富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

3年次IBDP修了生から一言頂きました。

「IBでの学び」

この2年間を通して、学ぶことの楽しさや、自分がいかに狭い視野で物事を考えていたかなど、多くのことに気が付き学ぶことができました。この学びや気づきを活かさなければ、IBで学んだ意味はないはず。生涯学び続けながら、世界の問題を異なる立場からも見つけ、さまざまな問題を解決できるよう行動をしていきたいと考えています。最後に、たくさんの人に支えていただきプログラムを修了することができました。ありがとうございました。

3年 津吉 もえ(押原中出身)



2年次IB生「TOK」の授業紹介

「TOK」とは？

「知っているとは何か」を様々な視点から見つめなおす学習活動です。

「TOK」の授業の雰囲気・感想は？

明確な答えがない問に対して、それぞれが「知っている」ことを多角的に分析し考える授業をしています。いかに私たちが知識を考えずに受け入れてしまっているのか痛感させられています。



TOKの授業イメージ動画をQRコードより視聴することができます



Kofu Nishi High School

山梨県立甲府西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1-1

TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164

URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2023.2 編集/広報委員会



*stage /steɪdʒ/

[[立っている場所]が原義] — ㊦ ㊧ ~s/-ɪz / ㊨

1 舞台、ステージ(◆世界の象徴)

2 [活動の]舞台、場所[for, of]

3 (発達・発展などの)段階、時期

用例 1 N-stage 西高生の時代(時期)

2 N-stage 西高生の活動舞台